



ホーム>世界>インド「ダリットたちの尊厳回復プログラム」報告1

一緒に歩もう!一緒に変わろう!「立ち上がった世界の人々」の21世紀の夢を応援しよう!

プログラム内容  
2010年9月

報告1  
10月

報告2  
11月

報告3  
12月

年間レポート  
2011年9月

報告4  
12月

報告5  
2012年1月

報告6  
3月

報告7  
6月

報告8  
10月



## 抑圧された人々、ダリットたちの尊厳回復プログラム

南アジア・インド北部

### ラムスラットさんの願い 2010年10月

インド社会の不可触民、最も抑圧されてきたダリットに生まれ、幼少時代を農村で過ごしたラムスラットさんには、ダリットの人々の心の動きが痛いほどわかる。カースト制度が人々の心を押し潰しそれに服従してしまっているのだ。最底辺に位置するダリットたちは、どうしようもない劣等感、自信のなさ、人への恐れでいっぱいだ。本当はどのような存在として造られたかを心から知ってはじめて、人間社会が彼らに押し付け、彼らの心とからだの重石となってきたカースト、他の人と比べて二流以下だという絶望的な思いが、彼らの心から消滅していくのだ。すべてのダリットたちがこのような日を迎えることが、ラムスラットさんの心からの願いだ。

自分が大切な存在として造られ、この地上に命を与えられたことを知ったダリットたちが、家族みんなや周りの人々を愛し、大切に關わる存在と変えられることをラムスラットさんは心から信じている。

そのラムスラットさんが、自分と同じ変革の情熱を感じて關わっているのが、今回訪問したウッタル・プラデシュ州北部の村に住むナナド・キショルさんだ。

### ラムスラットさんの訪問での感動と挑戦

今回、ラムスラットさんは、キショルさんが変革のために關わる3つの村と一緒に訪問した。彼らの可能性を知り、彼らがさらに変革を進められるように必要なことは何かを一緒に考える機会を持つためだ。

今回の訪問でもっとも励まされたことは、キショルさんの変革運動に共鳴する村のリーダーの一人が、村の議員選挙に立候補することだったとラムスラットさんは伝えてくれた。劣等感でいっぱい、とても人前には出ることができない、誰も自分たちを信頼してくれっこない。そう思っていた彼らのひとりが「自分は貴い存在として造られ、命を与えられた。」その新しい思いに動かされて、自信のなさが振り払われたのだという。これからも上層カーストの妬みなどで、多くの妨害が起こることだろう。けれども、この一歩はとても大きい。自分たちに与えられている可能性を信じて立ち上げることが、次の道を可能にするのだから。ラムスラットさんはそう信じている。これらの村々で人々の尊厳が回復され、人のために尽くそうとする人々が増えれば、地域は必ず変わっていく。そのプロセスがよりよく進められるように協力したいという願いが、ますます深まったようだ。



ウナノ地区で。キショルさんと村の人々

もちろん、挑戦もある。キショルさんの働きに深く共鳴している村の人々が、さらに多くの知識と実践の訓練が必要なことは明らかだった。また、劣等感にさいなまれてきた人たちは、自分の価値を守るために自分の意見に固執して、簡単に分裂が起こってしまう。このような挑戦があることも覚悟で、ラムスラットさんは、キショルさんと共に、ダリットの人々の尊厳回復に向けた村レベルの計画を練り始めている。

[プログラム内容](#)   [報告1](#)   [報告2](#)   [報告3](#)   [年間レポート](#)   [報告4](#)   [報告5](#)   [報告6](#)   [報告7](#)   [報告8](#)

[Page Top](#)

[Share](#) |

[ホーム](#)   [活動内容](#)   [FVIの特徴](#)   [参加する](#)   [寄付・献金](#)   [お問い合わせ](#)

Copyright(c) Friends with the voiceless International All Right Reserved

